福岡の花と緑の情報誌

まちとみどり 2018 春・夏号 Vol. 34 2018 春・夏号 Vol. 34 福岡市緑のまちづくり協会





ひとり ひとはな

「一人一花」運動スタート!



花や緑を身近な場所に飾ったり、育てたりすることは、心を豊かにし、生活に潤いを与えてくれます。さらに、みんなで一緒に花を育てれば、地域コミュニティの輪が広がります。その花で通りがいっぱいになれば、まちが明るくなるだけでなく、来街者へのおもてなしにもつながります。

平成30年1月、福岡市では、市民や企業一人ひとりが、そして行政がそれぞれの役割分担のもと、花や緑を育て彩りと潤いにあふれ、おもてなしと豊かな心が育まれるまちを創る取り組み、「一人一花」運動が始まりました。



今回の特集では、「一人一花」運動の展開イメージを紹介するとともに、この運動が始まる前から進められている花のまちづくりを紹介します。

この「一人一花」運動において、先導役としてさらなる活躍が期待されているのが、福岡市緑のコーディネーターです。今回、緑のコーディネーターが集い、それぞれの「一人一花」運動への思いを語っていただきました。その様子もお伝えします。

福岡市の事業展開イメージ

「一人一花」運動の今後の広がり

都心部

明治通り、はかた駅前通り、公開空地 など

来街者のおもてなしと市民活動の機運を高める

🔆 企業協賛による花壇づくり

多くの市民や県外・海外からの訪問者が目にする場所を企業 協賛の花壇で彩ります。

☆ エリアマネジメント団体による花壇づくりを応援 福岡市が場所を提供し、エリアマネジメント団体のフラワー ポット設置などを支援します。





身近な拠点 区役所、駅前広場、街路樹、バス停、公園、公民館 など

地域コミュニティの輪が広がる

🔆 市民と職員でつくる花いっぱいの区役所

- ・区役所の受け付け窓口や待合スペースに花を飾ります。
- ・職員と市民の皆さんの共働で区役所の花壇をリニューアル。
- ・年間を通して最も熱心に取り組んだ区役所を表彰。 など

☆ 身近な公共空間での市民・企業の花づくりを応援

- ・市民・企業の皆さんが気軽に花づくりに取り組めるよう応援します。 (例:土壌改良、活動の場の提供、活動助成金補助など)
- ・優れた花づくり団体を表彰。



民 有 地

・ 集合住宅、個人自宅 など

市民一人ひとりが花や緑に親しみ身近に感じる

☆「わたしの花」コンテスト

自宅の花壇や寄せ植え、生け花など、SNSを使って花の 写真コンテストを行います。

🗱 誰でも気軽に寄せ植え体験

寄せ植え体験ができる「一人一花ステーション」を福岡市植物園に設置します。





- 「一人一花」運動にどのように参加すればいいの?
- A まずは花や緑を自宅や職場に飾ったり、育てるなどして、くらしに取り入れてみませんか。市内には花づくり団体などがたくさんあるので、興味がある方はぜひご参加ください。
- 🔘 企業は何をすればいいの?
- A 事業所周辺の公共の植栽帯などを利用して、花壇づくりを始めてみませんか。また、福岡市では都 心部の花壇の整備・維持・管理費を負担してもらう、スポンサー花壇も募集しています。
- 地域団体は何をすればいいの?
- A 公共の植栽帯などを利用した花壇づくりに取り組んでみませんか。土の入れ替えなどは福岡市が支援します。



4月には「一人一花」運動のキックオフイベントを開催します。詳しくは18ページをご覧ください。



花と緑の活動が広がっています!

仲間と一緒にオープンガーデンとよはま

福岡市西区の豊浜地区では、地域の仲間でつくる「オープンガーデンとよはま」の皆さんが、毎年5月にオープンガーデンを行っています。平成19年から始めて、今年で12年目。個性的な4軒の庭が公開されています。

花を通して地域を元気に

始めたきっかけは、地域の花好きの方々との交流を増やしたい、それによって活気が失われつつあった町を、花を通して元気にしたいとの思いでした。

第1回目は地元の皆さんに楽しんでもらおうと、手作り チラシを豊浜近隣の家々にポスティング。やがて園芸店な どにもチラシを置いてもらえるようになり、一度来た人に は翌年も案内ハガキを出すことで来場者は増えていった とか。今では県外からも人が訪れるそうです。









花をきっかけに広がる交流

皆さんに12年間も続いている理由を尋ねると、「仲間と一緒だから楽しく続けられる」という答えが返ってきました。4人はガーデニングスタイルが違うので、来場者はさまざまな表情の庭を楽しむことができ、作り手としても互いの庭づくりがいい刺激になるのだそうです。

メンバーの藤森さんは「来てくれる人とのふれあいが楽しい」と、お手製のスコーンで来場者をもてなします。「今年はどんな風にしようかと、4人であれこれ考えることが楽しい。花づくりを通して喜びを分かち合える仲間がいてしあわせです」と語るのは山村さん。平成27年に自宅の庭が「花と緑のまちづくり賞 特別賞」を受賞した吉野さんは「わが家の庭は通りに面しているので、以前から庭仕事をしながら皆さんとの会話を楽しんでいましたが、オープンガーデンをきっかけに、さらに近所の方々との交流が増えた」と話します。「将来的には高齢の単身世帯など、地域で困っている人の庭づくりも手伝いたい」と葛原さん。オープンガーデンは地域を明るく元気にするだけでなく、交流や絆づくりにも、ますます役立ってくれそうです。



「福岡市を花と緑でいっぱいにしよう」と始まった、「一人一花」運動。すでに多くの市民の皆さんが公共空地や民有地、個人宅などで、花と緑に関わる活動を始めています。ここではその取り組みをご紹介します。

花づくりはふるさとづくり 青葉オープンガーデン

福岡市東区の青葉校区は「自分たちのまちを自分たちで作ろう」という意欲にあふれた地域です。子どもたちが 巣立った後もまた帰りたくなるような「ふるさとづくり」に 地域をあげて取り組んでいます。

公民館のバラ教室がきっかけに

中心的な役割を担うのは青葉公民館です。ここには書 道やダンス教室などに通う小中学生、近くの特別支援学 校の生徒、老人会の皆さんなど、多くの住民が集います。 この幅広い世代で同じ体験をすることが、子どもたちの学 びやふるさとづくりにつながると、多様な催しが企画され ているのです。

その一環として始まったのがオープンガーデン。青葉公民館で開かれた「バラ教室」の卒業生が中心となり、山本佑治公民館長の提案で平成20



年に始まりました。青葉で育った子どもたちがふるさとを 思うとき、豊かなみどり、美しい花、そしてたくさんの笑顔 があふれていてほしいという願いが込められています。

自宅の庭を開放するのは約20軒。校区や福岡市内からはもちろん、回を重ねるごとに宗像市、糸島市、久留米市など遠方からも多くの人が訪れるようになりました。



昨年の青葉 オープンガーデン





「地域交流はもちろんですが、自分の親や祖父母、近所の大人たちが庭づくりに励む姿を子どもたちが見て、大人になったときに自分もやりたいと思ってくれたらいいですね」と、山本館長は話します。



青葉公民館 山本佑治館長

花や緑とのふれあいは大切

また、青葉校区では子どもたちが花や緑とふれあう機会も多く、夏には「夢と花の種をつけた風船飛ばし」が行われています。植物繊維などを配合し数か月程度で分解されるエコ風船に、子どもたちの手紙と花の種をつけて飛ばすというものです。

「花や緑を育てることで子どもは多くを学びます。土を耕し、芽が出て、一生懸命世話をして花が咲くと、それが喜びにつながる」と、山本館長。青葉校区の花や緑は子どもたちの成長やふるさとづくりに欠かせない存在になっているようです。



環境活動推進会議主催



花づくりが盛んな 七 隈 校

七隈校区

福岡市城南区の七隈は花づくりが盛んな地域です。校区内には花壇が多く、手入れをする団体が多数活動しています。そのきっかけは七隈小学校と地域住民で行った意見交換会でした。子どもたちから「花いっぱいのまちにしたい」という声があり、その夢を叶えようと平成19年に「フラワーラブメイツ」が結成されたのです。これをモデルケースに複数の団体ができ、現在は校区内に9つの花づくり団体があります。

公民館が結ぶネットワーク

七隈校区は団体数が多いだけでなく、横のつながりがあることも特徴です。ある花づくり団体から「講習会を開いてほしい」と公民館に要望があり、公民館が開催した講習会に各団体が参加したことが始まりでした。これを機に年に1度「意見交換会」を開き、さまざまな情報交換を行っています。

このほか、毎年春には校区内の花壇を見て歩く「花壇めぐりウオーキング」、城南区役所や地下鉄の駅構内で活動の様子を紹介する「パネル展示会」などが行われています。花づくりのメンバーからは「多くの方に見られることで『がんばろう!』という力になる」という声が聞かれるそうです。



花づくり講習会



区役所でのパネル展示



花壇めぐりウオーキング (エコ・ガーデンと愉快な仲間たちの花壇)

また、「子どものころから花にふれる機会を」と、七隈 小学校の環境学習発表会に「フラワーラブメイツ」が参加。花壇での植え替えや水やりを子どもたちに体験させる など、校区全体で花づくりの機運を高め、「七隈を花でいっぱいに」という活動が広がっています。



環境学習発表会

あたたかな思いあふれるまちに

七隈公民館館長の松尾規文さんは「日ごろ花にふれる 機会が少なくても、通勤中に花壇やパネル展示を見るこ とで興味をもってもらえれば」と話します。また、主事の江 藤浩美さんは「花づくり団体の皆さんは、地域の人に花や みどりで『いってらっしゃい』『おかえりなさい』の気持ち を伝えるために活動しています。だから、忙しい人は見る

だけでもいい。花を見て感じたうれしさやホッとする気持ちが校区に広がっていけばいいですね。子どもたちが願ったのは、きっとそんなあたたかな思いにあふれたまちだと思います」と話します。



七隈公民館 松尾規文館長(左) 江藤浩美主事(右)







「校区を花でいっぱいにしよう」という活動が広がる七隈。 校区内ではたくさんの花づくり団体が活動しています。





「一人一花」運動を導く

福岡市緑のコーディネーター

市民と行政が共働して快適で美しい緑のまちづくりを進めるため、花や緑に関する知識や技術 を持つ人を福岡市が認定し、市民が自主的に取り組む緑化活動を支援する緑のコーディネーター 事業。制度が始まって13年、今年新たに認定された8期生を加え登録者は213人となりました。

2月18日(日)に福岡市役所で開かれた「緑のコーディネーター意見交換会」では、これからの 緑のコーディネーター事業や「一人一花」運動についての説明、コメンテーターとしてお迎えした 野見山由紀子さんによる、他都市の花のまちづくり事例紹介が行われました。参加した皆さんは 「自分の住む地域に花を増やす」「子どもたちと一緒に花壇づくり」「街中に野の花を咲かせた い」など各自の目標や取り組みを「私の一人一花」として発表しました。

緑のコーディネーターの皆さんには今年から始まった「一人一花」運動の先導役として、大きな 期待が寄せられています。





他都市に見る花を用いるアイデア

平成2年に大阪市で開催された「国際花と緑の博覧会」を契機に、わが国でも 都市や身近な地域で、花による快適な環境づくりへの取り組みが行われてきまし た。今ではさまざまな場所で花のある景観に出会えるようになっています。まち の花々は、訪れる人へのウェルカムやまちに寄せる思い、花を愛し育む人々の気 持ちを伝え、心地よい空間と時間を生み出してくれます。私がこれまで出会った まちの花々を紹介します。



野見山由紀子さん



神戸市は早くから花のまちづくりが盛んな都市でした。中心地の三宮駅周辺のフラワーロードには小さな花壇が点在しています。それぞれは小さな花壇でも、重なって見えることで

花があふれるまちを感じることができます。



ヨーロッパで行われている「花のまちコンクール」では、水のきれいさ、周辺の樹林、広告物に関する規則、町の活気など、観光地だけでなく住民の居住空間の美化・改善という、

環境の質に着目した景観づくりが評価されています。



ヨーロッパでは、同じ花を使いながらも個性を出すためにプランターの素材やデザインに工夫が凝らされています。これにより、地域の独自性や特色を表すことができます。



地域再生の一環として花のまちづくりにも取り組んだ地区です。 手作りのプランターカバーを用いることで、 見慣れたわずかな花で

も、その地域の独自性や温かさを感じます。「自分たちの住むところを、競いながらも自分たちのペースで無理なく楽しく進めていきたい」という気持ちで頑張ってきた地区です。



プロフィール

野見山由紀子(のみやま ゆきこ) 福岡市南区在住 景観計画「草木花景」代表。平成2年に大阪で行 われた「国際花と緑の博覧会」で花の設計・管理計 画・監理を担当。花や緑を使った都市の景観づくり、 花や緑を通した市民参加の街づくりなどに多数関

わっている。

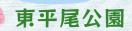
協会は皆さまとともに進めます

福岡市緑のまちづくり協会では、これまで皆様方からいただいた都市緑化基金への寄付、その運用益および当協会事業の収益を財源として、花や緑を増やすために緑化活動団体の支援や緑化助成、花や緑に親しんでいただくためにイベントやコンテスト実施、さらに緑のコーディネーターとともに、花と緑の良さを知っていただくための講座などさまざまな事業を行ってまいりました。 詳しくは 17ページへ

これからも、「一人一花」運動をさらに広め、皆様とともに、花や緑を育て、福岡市が彩りと潤いにあふれ、おもてなしと豊かな心が育まれるまちとなるよう事業を進めてまいります。



舞鶴公園 🔩





0006

3月

March

福岡城さくらまつり

■ 3月29日 金~4月8日 回

舞鶴公園

1000本のサクラが咲き誇る舞鶴公園。さくらまつり期間中は、夜桜がライトアップされ、昼夜問わずお花見を楽しめます。※サクラの開花状況、その他の状況により期間を変更する場合があります。

4月

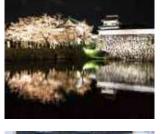
Apri

福岡城藤まつり

■ 4月20日 金~4月29日 印

舞鶴公園

フジの花が咲く大きな藤棚の下でゆっくりとおくつろぎいただけます。 21日(土)、22日(日)はほうじ茶カフェやマルシェなどさまざまなイベントを行います。



Маш

東平尾公園

5月

福岡国際女子テニス 2018 ■5月上旬

テレビでは味わえない白熱するプレーを、皆さんぜひ見に来てください。

九州テニス協会主催で毎年開催される、年に1回の一大大会です。 各国を代表する女子プレーヤーが一堂に会し、熱い戦いを繰り広げます。 平成29(2017)年 シングルス優勝 マグダレナ・リバリコバ



季節の見どころ





サクラ (舞鶴)

舞鶴公園には、約20種類のサクラが植えられています。3月中旬に早咲きのシダレザクラが咲き、一番本数の多いソメイヨシノは3月終わり~4月初めに咲きます。そのあと遅咲きのサトザクラが4月中旬ごろまで咲き、約1か月間サクラの花を楽しめます。



官兵衛ゆかりの御鷹屋敷跡は、「牡丹・ 芍薬園」として整備されています。3月に

早咲きのサクラが開花し、そのまま5月中旬までサクラ、ボタン、シャクヤクの開花リレーが楽しめます。ボタンの開花期間である4月上~中旬はサクラやフジの開花とも重なり、撮影や鑑賞を目的に、たくさんの方が訪れます。

ボタン (舞鶴)



フジ(舞鶴)

約1300㎡の藤棚を持つ大きな藤園は、道路沿いにありながら、ほっと一息つける静かな空間です。フジの花の香りに包まれながら、ベンチでゆっくりとお楽しみください。



チャンチン (東平尾)

徳川の時代に中国から渡来したとされる、10mを超える高木です。春、新芽は紅紫色から開き始めるとピンクに染まり、徐々に色が薄くなり透き通ったようなクリーム色へ、やがて緑色に変化していきます。日々変化する美しさを楽しめます。



ツツジ (舞鶴)

ツツジは園内のいろいろな所で見られ、つつじ園やお濠端でも楽しめます。大きな木のツツジが開花すると、辺りの風景がぱっと華やぎます。



ナンジャモンジャ (東平尾)

春に、まるで雪が積もっているかのような真っ白い花を咲かせます。歩道沿いではなく、少し隠れた場所にあるので、探してみてはいかがでしょうか。



5月 シャクヤク (舞鶴)

牡丹・芍薬園では、ボタンの花のピークが過ぎるころにシャクヤクが咲き始めます。約1600㎡のシャクヤクが満開を迎えると、まるで小高い丘にある花畑を散歩しているかのようです。開花期には、少し高い位置から花を楽しめる花見台が設置されます。



ゴールデンウイークのころ、舞鶴公園に6か所あるお濠のうち2か所でスイレンの花が咲き始めます。10月までの約半年間という長い期間、水面を彩り、たくさんの人の目を楽しませてくれます。

舞鶴公園、東平尾公園では楽しいイベントが盛りだくさん。 季節の移り変わりが感じられる、旬の見どころもいっぱいです。ぜひ、おでかけください!

イベントは天候などにより変更や中止になる場合があります。詳しくはHPでご確認の上、おでかけください。



7月

「じゃぶじゃぶ池オープニングイベント | ■7月23日(予定)夏休み開始日 (東平尾公園)

毎年夏休み期間中だけ楽しめる「じゃぶじゃぶ池」。小さなお子様が楽しめるシャボン玉や水竹鉄砲作りなどのイベント を、夏休み最初の日のオープニングとして開催します。

博多の森を楽しむ会「昆虫ウォッチング」

■7月下旬~8月上旬

東平尾公園

東平尾公園レベルファイブスタジアムの裏山をフィールドに、夏の暑い時期に生息する甲虫類などの観察会を行います。





舞鶴公園

福岡の夏の風物詩としておなじみの西日本大濠花火大会は、大濠公園を舞台に開催されます。 舞鶴公園から鑑賞する人も多く、平和台陸上競技場には有料観覧席が設置されます。



日ごろ、練習会場としては使用できない博多の森陸上競技場で、合同練習会を行います。また、練習後は、競技場を中心 に一斉清掃を行います。





ハンミョウ





ハナショウブ (舞鶴)

春の花が咲き終わり蒸し暑さを感じ始めるころ、花菖蒲園に ある約2300株のハナショウブが咲き始めます。初夏の日差 しを受けて次々に花開き、満開の花菖蒲園は、まぶしいほど の美しさです。



ハナショウブ

レベルファイブスタジ アムの裏にある調整池 では、毎年綺麗なハナ

ショウブが咲き、白と 紫のコントラストを楽

しめます。

(東平尾)

ベニバナトチノキ (東平尾)

初夏に枝の先端に直立した 赤い花穂が見応えのある、 「ベニバナトチノキ」。 「セイヨウトチノキ」と「ア カバナトチノキ」を交配して



作られた園芸品種です。



アジサイ(舞鶴)

潮見櫓前や牡丹芍薬園入口で アジサイを楽しめます。つぼ み、咲き始め、満開そして咲き 終わりまで、日々少しずつ花の 色が変わっていき、目が離せま せん。



ヤマモモの木があります。初 夏には緑の葉っぱの間に 赤々とした実をつけます。

ヤマモモ (東平尾)

東平尾公園にはたくさんの

ハス (果托) (舞鶴)

ハスの花が終わったあと、めしべの部分が果托 となり茶色に熟します。お盆を過ぎる頃から、 花よりも果托が増えていき、お濠の風景が秋ら しさを帯びていきます。



ヒガンバナ (舞鶴)

お彼岸が近づくと、平和台陸上競技場 スタンドやお濠端のほか、園内のあちこ ちでヒガンバナが咲き出します。暑い夏 が終わり、空気に秋らしさを感じられる のもこのヒガンバナが咲くころです。







ハス(花)(舞鶴)

ハスの花は、明け方に咲き、昼前に閉じるので、鑑 賞は午前中がお勧めです。つぼみが咲いてから、3~ 4日間、花びらの開閉を繰り返します。雨の日には、 葉が持つ「はっ水効果」により、葉にたまった水がは じかれ、コロコロと転がる様子が楽しめます。





舞鶴公園

「癒しの空間」 甲斐 満男

舞鶴公園



「街中の花園」 高鷹 春



「ある春の日」 藤 晃彰



「お堀に生きる」 濱咲 誠



「小春日和」 東 保彦



「蜜を求めて」 丸山 徳子



天神中央公園

「緑のパラダイス」 伊藤 敏



「桜の園」 今津 盛一



「憩いの場所」 大野 隆幸



「花筏」 上玉利 健-



「初夏の福岡城祉」 河村 稔



「5月の風」 関東 博子



「芽吹きの頃」 高鷹 るみ子



「秋高く」 塚野 克彦

舞鶴公園



暑い季節」 橋野 芳治



「緑のスダレ」 松本 洋子

第19回 花と緑のまちかど写真コンテスト 大募集

花やみどりで彩られた「福岡のまちかど」をとらえたお気に入りの写真を送ってください。

応募締切 平成30年8月31日(金)必着



応募方法 応募票に記入し、作品の裏面に貼付の上、郵送または持参してください。 お一人3点まで応募できます。

> (応募票は協会ホームページからダウンロードできます。また、区役所、市民センターなど にも置いています)

応募上 の注意 〔作 品〕平成29年9月1日から平成30年8月31日までの一年間に福岡市内の花と緑を 題材とした未発表の写真が対象です。

(サイズ)四つ切り、ワイド四つ切り、A4

〔著作権〕入賞作品の著作権は主催者に帰属します。賞に選ばれた場合は、原板やデータ を提出していただきます。

〔肖像権〕人物が写っている場合、撮影の同意を得てください。肖像権等の承諾は応募者 の責任とします。画像加工したものは応募できません。

くわしくは 協会ホームページ www.midorimachi.jp 塚のまちづくり協会 問い合わせ (公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 TEL 092-822-5832



長村さんとハーブの出会いは昭和50年にさかのぼります。家族の仕事でアメリカに移り住んだことがきっかけでした。当時はベトナム戦争によって社会が荒れていた時代で、「自然回帰」という考えがブームでした。家庭菜園を作り、自然と共に暮らすことに誰もが憧れるなか、長村さんもハーブのある暮らしを楽しんだそうです。帰国後は本格的に勉強を始め、メディカルハーブコーディネーター、薬草ガーデンマスターなどの資格を取得、英国ハーブソサエティ会員にもなりました。

「私がハーブの魅力を知ったのはアメリカに渡ってからです。思い返せば子どものころは庭にシソや山椒、ミョウガなどが植えられ、料理にそえる薬味として摘んだものです。これらは伝統的な日本のハーブです。私たちは昔からずっとハーブと共に暮らしてきたと言えますね」と、長村さんは原点を振り返ります。

緑化フェアから緑のコーディネーターに

緑のコーディネーターになったきっかけは、平成17年の「全国都市緑化ふくおかフェア(アイランド花どんたく)」。花はもちろん、ボランティア活動が好きだった長村さんは、会期中、ボランティアリーダーとして活躍。その後養成講座を受け、緑のコーディネーター1期生になりました。現在は福岡市内でハーブやアロマを使った石けんやポプリ作り、料理、またハーブ染めなどの講師として活動しています。

長村さんの講座をのぞいてみると、この日のテーマは「ラベンダーの石けん作りとアフタヌーンティー」。教室にはアロマがたかれ、心地よい香りが受講生の皆さんを迎えます。初めにハーブの効能や利用法、育て方などについての説明があり、ラベンダー石けん作り、その後は長村









1 フレッシュハーブを使った手作り石けん講座。 親子で参加する姿も 2 長村さんの隣り(左)は講 座を手伝う緑のコーディネーター宮本るみさん(6) 期生) 3 講座会場にはエッセンシャルオイルのほか、 長村さんがつくったポプリなどをディスプレイ 4 講 座の後半は紫芋とリンゴの焼き菓子、フレッシュハー ブティーでお茶会。すべて長村さんのお手製 5 長村 さんが自宅で育てているハーブなど。庭を見た人か らは「博多のベニシアさん」と呼ばれることも

さんお手製のフレッシュハーブティーと季節の焼き菓子で お茶会という内容です。なごやかな雰囲気の中、受講生か らの質問に丁寧に答え、最後には花の種のプレゼント も。「もっと福岡のまちに花や緑を増やしたい」という思 いから、いつも花の種をプレゼントするそうで、この日はス イートピーとひまわりの種が配られました。

この種をはじめ、石けん作りやお茶会に使ったハーブは 長村さん宅で育てたものが使われています。

「自宅で育てながら、私自身がハーブのある暮らしを楽 しんでいます。講座の準備に時間はかかりますが、喜んで いただくことが励みになります。教室に入ってきた皆さん は『いい香り!』と笑顔がこぼれ、『今日は楽しかったで す。癒されました!』という言葉をいただくと、私も幸せな 気持ちになりますし

楽しみながら社会貢献を続けたい

自身を「好奇心旺盛。知らないことを学ぶのはとても 楽しいです」と話すように、アンテナを広く張って得たこと は、講座に生かされています。皆さんに正しく広い知識を 伝えるのが長村さんの教え方で、幅広く学べることは



受講生の満足度につながっているようです。また、ハーブ には気を付けたい点もあるため、利用法や効能を正確に しっかり伝えることを長村さんは大切にしています。

「緑のコーディネーターになって本当によかった。公的 な機関であるまちづくり協会と一緒に活動するからこそ、 信頼度は上がります。そして仲間の方々とのいい出会いも あります。講座を手伝ってくれる若いコーディネーターの 方たちにもできるだけいろいろなことを伝えて活動してい きたいですね。今後とも協会と連携を取りながら、緑の コーディネーターとして社会参加を続けていきたいです| と、笑顔で今後を語ってくれました。



仲間に聞きました

緑のコーディネータ-6期生

宮本るみさん

講師としての経験や知識は十分にある長村さんですが、今もなお 「学ぼう」という姿勢がすばらしく、講座の手伝いを通して多くのことを 学ばせてもらっています。準備を入念にして受講生と向き合い、一生懸 命伝えようとする長村さんの姿勢が、皆さんの「楽しかった!」につなが るのだと思います。

福岡市緑のまちづくり協会では

緑のコーディネーターの養成・紹介・派遣を行っています

緑のコーディネーターとは、市の認定を受け、福岡の緑化推進のための活動を行う人です。 現在213人が、各自の得意 分野を生かし福岡市内で活躍しています。協会が窓口となり、依頼に適したコーディネーターを紹介しています。

緑のコーディネーターの活動 -

- みどりの講座講師
- 地域の花壇づくり指導
- 自然観察会ガイド
- 花や緑のアドバイザー
- 森の保全活動のアドバイス

● 緑化イベントのサポート

問い合わせ

(公財) 福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 TEL 092-822-5832

など



PTAをサポートするために結成

福岡市中央区白金にある高宮小学校。学校前の通りには校舎やグラウンドを囲むように花壇が続き、春のチューリップをはじめ季節の花が美しく咲いています。この花壇を手入れしているのが「フラワーアップ高宮」です。

もともとこの外周花壇は、高宮小学校PTAの環境美化 委員の皆さんが世話をしていたのですが、この活動をサポートする目的で、花づくりにくわしい地域の有志が会を立ち上げました。

メンバーは60代を中心とした、花づくりのベテラン揃い。共に活動するPTAの皆さんは30代が中心。月に1度の活動日には、ベテランメンバーの指導を受けながら、若い皆さんがテキパキと作業を進めます。

PTAからは毎回25人ほどが参加するため作業の担い手は多いのですが、やはり大変なのは夏場の水やり。そこでフラワーアップ高宮では「自動散水機」を取り入れています。花壇にくまなくホースを這わせ、無数にあいた小さな穴から水が流れる仕組みで、タイマーが付いているため開始時刻や給水時間も自由に設定できます。

この仕掛けを自作したのが、 会長の豊福茂隆さん。豊福さんは近隣の花づくり団体「白 金広場花いっぱい実行委員 会」の会長も務め、高齢会員



の負担を軽くしたいと、自動散水機を手作りしました。それを高宮小学校にも取り入れたというわけです。外周花壇の全長が122メートルもある高宮小学校では、この装置が大活躍。おかげで夏の活動も無理なく続けられているそうです。



思いやりの気持ちを花に託して

高宮小学校前の花壇のある通りは「思いやりロード」と呼ばれています。これは、毎年5年生が11月中旬にチューリップの球根を植え、きれいに咲いた花で卒業生を送り出し、新1年生を迎えることから名前が付けられたものです。

植え込みの日に向けて、準備は2週間前から始まります。土づくり、花壇デザイン、子どもたちに植え方を教える方法など、会ではPTAの皆さんと協力しながらさまざまな

準備を重ねます。例年どおり昨年11月に5年生59人が参加し、色とりどりのチューリップの球根約700個を植えました。また、パンジーやビオラ、姫金魚草なども加わり、春の訪れが待ち遠しい花壇になりました。

「PTA役員の任期は1年なので、作業に慣れたころに 交代となるのが残念。次の年にはまた最初から教えなければいけませんが、若い皆さんと力を合わせ、花づくりで 校区をもっと元気にしたい」と、豊福会長。今後は花壇近くの緑地帯も町内で手入れすることが決まり、花と緑の力は校区をさらにいきいきとしたものにしてくれるでしょう。





1 高宮小学校校門横から通り沿いに続く花壇 2 夏に活躍する自動散水 機 3 卒業生、新入生のために植えたチューリップ 4 子どもたちに球根の 植え方を説明する豊福会長 5 5年生みんなで球根を植えました 6 フラワーアップ高宮、高宮小学校PTA環境美化委員の皆さん 7 シロツメクサが咲く白金広場



仲間に聞きました

高宮小学校PTA環境美化委員 委員長 **靍田絵美**さん (写真後列左端)

委員の中には自宅のプランターで植物を育てている人もいますが、大きな花壇ではずいぶん勝手が違います。豊福会長をはじめ、フラワーアップ高宮の皆さんには活動計画から細かな手入れ法まで指導していただき本当に助かります。これからもいろいろ教わりながら、地域の人に花を楽しんでもらえるようがんばります。

点隣の活動団体

白金広場花いつぱい実行委員会



高宮小学校と同じ通りに面した白金広場は、午前中は近所の高齢者のグラウンドゴルフ場に、午後からは子どもたちの遊び場になる都心の貴重な空間です。「白金広場花いっぱい実行委員会」の皆さんは、ここに多くの草花を植え、草取り、花がら摘み、育苗など細やかな手入れを行って地域の憩いの場を大切にしています。

緑の活動支援事業



市民の皆さんで結成された団体が自主的に取り組む緑化活動を育成・支援する事業です。 緑の普及啓発、地域の環境改善、地域コミュニティーづくりなどを目的としています。



地域の花づくり

市内にある公共用地や空地などにおいて花壇づくりを行う活動で、花壇などの面積が10㎡以上のもの。



認定後5年間/年間1㎡あたり2,000円 上限20万円 認定後6年目以降/年間1㎡あたり1,000円 上限10万円

地域の森づくり

市内にある樹林地などの保全管理を行う活動で、活動区域の面積が300㎡以上のもの。

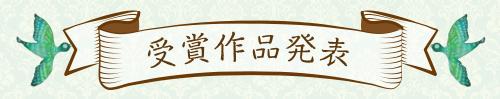


認定後5年間 上限20万円 認定後6年目以降 上限10万円

問い合わせ (公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 TEL C

TEL 092-822-5832

第18回 花と緑のまちかど写真コンテスト



公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会では、毎年「花と緑のまちかど写真コンテスト」を行っています。 今回も公園や街路樹などのまちかどの花や緑をテーマとした福岡市内で撮影した写真を募集したところ、 105人の皆さんから247点の作品をご応募いただきました。入賞した作品をご紹介します(敬称略)。





「ピンクカーペット」 飯田 清士





「初夏」 片島 京子



「希望」 林 帰邦





「雪の朝」 宮原 秀子



舞鶴公園

「癒しの空間」 甲斐 満男

舞鶴公園



「街中の花園」 高鷹 春



「ある春の日」 藤 晃彰



「お堀に生きる」 濱咲 誠



「小春日和」 東 保彦



「蜜を求めて」 丸山 徳子



天神中央公園

「緑のパラダイス」 伊藤 敏



「桜の園」 今津 盛一



「憩いの場所」 大野 隆幸



「花筏」 上玉利 健-



「初夏の福岡城祉」 河村 稔



「5月の風」 関東 博子



「芽吹きの頃」 高鷹 るみ子



「秋高く」 塚野 克彦

舞鶴公園



暑い季節」 橋野 芳治



「緑のスダレ」 松本 洋子

第19回 花と緑のまちかど写真コンテスト 大募集

花やみどりで彩られた「福岡のまちかど」をとらえたお気に入りの写真を送ってください。

応募締切 平成30年8月31日(金)必着



応募方法 応募票に記入し、作品の裏面に貼付の上、郵送または持参してください。 お一人3点まで応募できます。

> (応募票は協会ホームページからダウンロードできます。また、区役所、市民センターなど にも置いています)

応募上 の注意 〔作 品〕平成29年9月1日から平成30年8月31日までの一年間に福岡市内の花と緑を 題材とした未発表の写真が対象です。

(サイズ)四つ切り、ワイド四つ切り、A4

〔著作権〕入賞作品の著作権は主催者に帰属します。賞に選ばれた場合は、原板やデータ を提出していただきます。

〔肖像権〕人物が写っている場合、撮影の同意を得てください。肖像権等の承諾は応募者 の責任とします。画像加工したものは応募できません。

くわしくは 協会ホームページ www.midorimachi.jp 塚のまちづくり協会 問い合わせ (公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 TEL 092-822-5832



福岡市緑のまちづくり協会 事業のご案内

緑のまちづくり協会では福岡市が花と緑あふれるまちとなるように花や緑に関する様々な事業を行っています。



都市緑化等の推進

地域の花や緑を増やすために

緑化活動団体の支援 市民の皆さんでつくる団体が自主的に取り組む緑化活動を支援しています。 「詳しくは13・14ページへ

地域の森づくり



保全管理を行う団体

市内にある樹林地などの

18 団体 会員 602 人

活動面積 764,379 ㎡

助成金 2,640 千円

[H29年度実績]



市内にある公共用地において 花壇づくりを行う団体

140 団体 会員 2,564 人 活動面積 17,630 ㎡ 助成金 12,370 千円

[H29年度実績]

緑化助成 緑のまちづくりを進めるため、道路から見える緑化の施工費用の一部を助成します。

花や緑に親しんでいただくために

緑に親しむイベントやコンテストの開催等 詳しくは18ページへ

福岡市とともにイベントを行っています。

☆ グリッピキャンペーン 毎年10月に開催している都市緑化 イベント。事務局をしています。



* さくらまつり

城壁とさくらがライトアップされ、 まちを美しく彩ります。



★ 一人一花スプリングフェス 市民や企業の皆さんと一緒にまち なかを花で彩ります。



花や緑のコンテストを行っています。

★ 花と緑のまちづくり賞

花と緑のまちづくり活動に顕著な功績のあった団体 を表彰するものです。

花と緑のまちかど写真コンテスト 花と緑に彩られた福岡のまちかどをテーマに実施し ています。

花と緑の良さを広めるために

緑のコーディネーターの養成・紹介・派遣





緑のコーディネータを養成し、講座開催や講師派遣を行っています。 詳しくは11・12ページへ





これらの事業は、🗘 皆さまの寄付 (都市緑化基金) やその運用益、 💠 当協会事業の収益 (駐車場・自販機) を財源としています。 その他に市の街路樹管理や、舞鶴公園・東平尾公園の管理運営も行っています。



協会管理駐車場



公園自販機

福岡城さくらまつり

黒田官兵衛・長政父子が築城した福岡城跡では、約1,000本のさくらが春の訪れを 鮮やかに引き立てます。ライトアップされたさくらと城壁のコントラストは息をのむほ どの美しさです。



種類豊富なグルメ屋台や子どもも楽しめるアトラクションもあります。春の陽気に包ま れた緑豊かな舞鶴公園でさくらを見ながらお散歩しませんか。

期間 平成30年3月29日(木)~4月8日(日)

※さくらの開花状況、その他の状況により期間を変更する場合があります。

場所 国指定史跡「福岡城跡」(舞鶴公園)

インフォメーション開設時間 10時~22時

ライトアップ点灯時間 **18時~22時** ※3月29日は19時~

グルメ屋台営業時間 11時~22時

- ・スタンプラリー
- ・さくらボランティアガイド
- ・さくらグルメ屋台
- · 桜園、多聞櫓、御鷹屋敷跡 特別ライトアップ (入場料 各300円、3か所共通券 600円)
- さくらふれあい動物園
- ・アトラクションゾーン
- •福岡城歴史的建造物特別公開

「一人一花」運動キックオフ`

一人一花スプリングフェス

市民・企業・行政一人ひとりが花と緑を育て、公園や歩 道、会社、自宅など福岡市のありとあらゆる場所を花と緑 でいっぱいにする取り組み、それが「一人一花」運動です。

この運動のスタートを飾るイベントが天神の警固公園 で開催されます。会場は市民の皆さんで作り上げるさま ざまな花壇で彩られます。ぜひこの機会にイベントに参加 し、あなたの「一人一花」運動を始めてみませんか。

期間 平成30年 4月7日(土)~4月15日(日) 10時~21時(予定)

場所 警問公園



- ・市民団体、企業による花壇展示
- ・市民参加の花壇コンテスト
- ・フラワーカフェ ・フラワーマルシェ
- ・市民の手で作り上げる5.000本の 花々による巨大オブジェが登場

福博花しるべ チューリップロード

見頃 平成30年3月下旬~4月中旬

場所 博多~天神~舞鶴公園を結ぶ約4km





など

厚

加



福岡市花と緑のマスコットキャラクターグリッピのお話

人一花って?の巻









福岡のまちを花とみどりでいっぱいに

皆さまのご支援は福岡市の緑化推進に役立てています

都市緑化基金へのご寄付ありがとうございます

園芸福祉ふくおかネット 片江市民緑地グリーンメイトの会 九大病院・馬出フラワーボランティア

一般社団法人 日本ハンギングバスケット協会 福岡県支部 一般財団法人 福岡市市民の森協会 舞鶴公園フラワーボランティア みどりちかまる

特定非営利活動法人 緑のキャラバン隊

(平成29年2月1日~平成30年1月31日の間にご寄付いただいた企業・団体、50音順、敬称略)

福岡市都市緑化基金のしくみ

寄付金の税額控除が適用されます

(公財)福岡市緑のまちづくり協会が運営母体となり、市民や民間企業の皆さまから いただいた寄付金を積み立て、その運用益金などを利用し都市の緑化をすすめる基金です。

市民·企業·団体 の皆さま



福岡市 都市緑化基金



都市緑化 推進事業

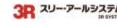




熊谷京子 マリフト(株)代表









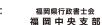




















ドリームステージ (株)イクティス Water site.OTTO (株)エスケイ ㈱大井不動産 ㈱オー・エイチ・アイ ㈱九州北部サービス 住友林業緑化㈱ ㈱トータルスタッフ

> 日本生命保険相互会社労働組合福岡総合支部 (有)フラワーパーク (株)みぞえ 溝江建設(株)

(平成29年度期、順不同、敬称略)

<スポンサー花壇>福岡市が企業や市民の皆さまからいただいた協賛金で、 天神や博多の福岡市都心部におもてなしの花壇を設置しています。

都市緑化基金やスポンサー花壇に関する問い合わせ

(公財) 福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 TEL 092-822-5832

協会本部事務所



〒814-0001 福岡市早良区百道浜 2-3-26 福岡タワーセンタービル2F TEL 092-822-5832 FAX 092-822-5848

東平尾公園管理事務所

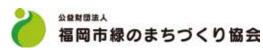


〒812-0852 福岡市博多区東平尾公園2-1-2 (陸上競技場入口) TEL 092-611-1515 FAX 092-611-8988

舞鶴公園管理事務所



〒810-0043 福岡市中央区城内 1-4 (陸上競技場入口) TEL 092-781-2153 FAX 092-715-7590



www.midorimachi.jp



